

規則適用上の解釈

1 内野手に触れないで、その股間または側方を通過した打球には、内野手の股間又は側方だけでなく守備できる範囲の頭上を越えた打球も含まれる。(5.06 c (6))

2 スリーバントについて

2ストライク以後に、故意にファウルとするために意図的にカット打法をしたときは、球審は、動作によってはスイングがないとして、ファウルボールしないでバントとして第3ストライクを宣告する場合がある。(5.09 a、用語の定義 13)

3 アウトの時機 (第3アウトと得点の関係)

アウトの時機は、審判員が“アウト”の宣告をした瞬間ではなく、プレイが終了した瞬間である。

【注】球審が、プレイ終了時点が確認できない場合は、アウトの時機は審判員が“アウト”を宣告した時点としなければならないから、得点に関係のある第3アウトの場合には、審判員はアウトの瞬間に速やかに宣告しなければならない。この場合に落球したような場合は、宣告の訂正となるがやむを得ない。(アマチュア野球内規⑥、5.08 a 【注1】)

4 バット全体がフェア地域又はファウル地域に飛んで、守備の妨害になった場合について (5.09 a (8) 【原注】)

(1) 故意であったか否かの区分なく、妨害が宣告される。

(2) 妨害は、発生の時点で宣告しなければならない。後で協議して妨害にすることはできない。

5 走者が野手の触球を避けた場合について (5.09 b (1))

走者の現在地と塁を結ぶ直線の左右の各3フィートが走者の走路とみなされる。したがって、走者が触球を避けて3フィート以上遠ざかればラインアウトが宣告される。

6 塁の占有権と走塁放棄との関連 (5.06 a、5.09 b (2))

走者2・3塁のとき、3塁走者が三・本塁間でランダウンプレイ中に2塁走者が3塁に到達して触れているとき、3塁走者がランダウンプレイを逃れて3塁を走り越した場合、3塁走者を走塁放棄でアウトにする。

7 捕手がボールを持たないで本塁上に出た場合

本塁上とは本塁の基点を横に引いた線より前のことで、本塁付近だけとする。

なお、上体をこの線より前に出した場合は、足が出なくても打撃妨害が宣告される。

(5.09 b (1))

8 走者がいるとき、投手がボールを両手で身体の前方で保持した後、投手板につけばボークとなる。(5.07 a (1) (2))

9 投手の投球当時とは、投手が打者に向かって投球に関連した自然の動作を始めたときをいう。セットポジションの際の“ストレッチ”は投球動作の開始とはみなさない。

10 投手の軸足が投手板上か投手板をはずしたに関係なく、本来の守備位置にいる野手に送球した場合に、その送球がけん制と見られない場合は、ボークが宣告される。

(6.02 a (4) (8))

11 走者がいるとき、軸足を投手板に触れている投手が捕手（野手を含む）にサインを出すか、あるいは受けるなど、手を動かして肩や胸等に触れる動作をした場合は、本規則に違反するのでボークとなる。

また、軸足を投手板からはずして同様な動作をした場合には、遅延行為とみなされボークとなる。(6.02 a (8))

12 投手板に触れている投手が、投げる方の手にボールを持たないで、塁に送球するまねだけして実際に送球しなかった（偽投）ときには、遅延行為とみなされボークとなる。(6.02 a (8))

13 アマチュア野球決定事項の運用について (6.02 a (8))

走者がリードしていないにもかかわらず、たとえば投手が塁へ、“山なり”のゆるい“牽制球”を投げる行為は、牽制球とは見なしがたく、「投手の不必要な試合の遅延行為」に該当しボークとなる。

14 故意四球と捕手の位置 (5.02 a、6.02 a (12))

審判員が“故意四球”が企図されたと判断する場合とは、捕手があらかじめ捕手席内で立ち上がって投手の投球を待つ姿勢をとり、しかも誰が見ても作戦上その打者を敬遠するという守備側の意図が明らかな場合に限られる。

たとえば、3塁に走者がいて、スクイズプレイを防ぐためのウェストボールを投げさせようとして、捕手が腰をかがめたままで投球を待つようなときには、片足を捕手席の外に出しても、投手にボークを課さないものとする。

15 2塁への偽投に引き続いての送球

塁上に複数の走者がいるときに、2塁へ正しく偽投し、投手板に触れたまま連続して他の塁へ送球する場合は、投手板を外さなければならない。

外さなかった場合にはボークとなる。

16 捕球の解釈について（用語の定義 15）

打球または送球が野手のグラブに挟まった場合、ボールは生きておりインプレイである。野手はグラブにライブのボールが挟まったまま、そのグラブを投げることは正規のプレイで、ボールが挟まったグラブを捕った野手は規則どおりにボールを保持したとみなされる。たとえば、野手は、ボールが挟まったグラブを持って走者又は塁にタッグすることができる。これは正規のプレイである。

17 打球又は送球がプレーヤーのユニフォームの中に入り込んでしまった場合の処置について（用語の定義 15 関連）

打球又は送球が偶然にプレーヤー又はコーチのユニフォームの中に入り込んでしまった場合（あるいは捕手のマスク又は用具に挟まって止まった場合）、審判員はタイムを宣告し、ボールデッドにして打者には一塁を与え、審判員の判断ですべての走者に対して塁にとどめるか、進塁を認める。このプレイで走者がアウトにされることはない。なお、送球によってこのような事態が生じた場合、進塁させる基準は、送球が最後の野手の手から離れたときとする。

18 アピールの際の「プレイの企て」の解釈について（5.09 c）

投手又は野手がアピールのために塁に送球し、それが悪送球となってボールデッドの箇所に入り、アピールプレイを果たすことができなかった場合を「プレイの企て」という。以後いずれの走者、いずれの塁に対しても、再びアピールすることはできない。アピール権は消滅する。

19 球審が捕手の送球動作を妨害した場合について（5.06 c（2））

盗塁の阻止、走塁に対する刺殺行為に限らず「球審が捕手の全ての送球（打球処理を除く）を妨害した場合」つまり、投手への返球行為も含む。たとえば、第3ス

トライクを捕手が捕球できなかったときの守備行為を妨害したときも含む。(ボールデッド、打者アウト、走者帰塁)

20 ベースコーチの肉体的援助について (6.01 a (8))

塁に複数の走者がいて、1走者に対するベースコーチの肉体的援助があった場合、その走者に対して送球されるなどプレイが直接行われているときは即ボールデッドとするが、それ以外の場合は即ボールデッドとせず、すべてのプレイが終了してからボールデッドにして、肉体的援助のあった走者をアウトにする。ただし、2アウト後にベースコーチの肉体的援助が発生したときは、その走者を即アウトとする。

21 飛球が捕らえられリタッチが生じた際の「ボールデッド中の塁の踏み直し」について (5.09 c 【規則説明】 (B) 【注4】)

飛球が捕らえられたときのリタッチを果たす際も、塁を空過した場合と同様、ボールデッドのもとでは「次の塁」に達すれば、リタッチを果たさなかった塁を踏み直すことは許されない。この場合の「次の塁」とは、ボールデッドになったときの走者の位置によって定まる。たとえば、走者が

① 2・3塁間のときは3塁が次の塁

② 3・本塁間のときは本塁が次の塁

③ 本塁に達していたときは「次の塁がない」ことから、その走者がダッグアウトに入ってしまう限り、リタッチを果たすべき塁の踏み直しは許される。

22 投手が投球動作を起こした後、投球動作を止めて(ボーク)、投手板をはずせばその時点で即ボールデッドにして、以後のプレイはすべて無効とする。

23 前進守備時の野手の位置について

故意に打者を惑わすことと野手の安全を考慮して塁間の半分を目安として、投手がリリースするまでその位置にとどまること。(6.04 c)

24 ホームランの解釈

フェンス最上部を境界線とし、打球がこれを直接越えるか、これに触れてスタンドインの場合は本塁打とする。プレイングフィールドに戻ればボールインプレイとする。

打球が外野フェンスの途中で突き出ている部分に触れてスタンドに入った場合は、二塁打とする。

25 アピール権消滅に関するオリジナルプレイについて

オリジナルプレイとは、打球後に生じた一連のプレイをいう。また、オリジナルプレイが終わったとは、すべての走者が進塁をストップし、たとえば塁についている、あるいは次塁を狙う素振りがない、そして内野手（投手を含む）が内野でボールを保持している状態をいう。（5.09c 後段【注1】関連）

26 悪送球が野手の手を触れたときの走者の位置について（5.06b（4）G 関連）

1 アウト走者 1・2 塁、2 塁走者がけん制で 2・3 塁間でランダウンプレイになった。その間、1 塁走者は 2 塁に達していた。その後、ランダウンプレイにおいて 2 塁手が 3 塁へ悪送球してボールデッドの箇所に入ってしまった。

悪送球が野手の手から離れたとき、2・3 塁間には二人の走者がいた。

このような場合は「各走者がその時に位置していたところ」との解釈から、1 塁走者には 2 塁から 2 個の塁、すなわち本塁までの進塁を認める。

27 対象走者以外に対するけん制球について（6.02a（4）（8））

1 アウト走者 2・3 塁、野手は前進守備、投手は投手板上から 3 塁にけん制球を投げた。3 塁手は、一歩前に出てその送球を捕って素早く 2 塁に送球し、2 塁走者をアウトにした。3 塁手に 3 塁走者をアウトにしようとする行為も見られず、ましてや、3 塁手も一歩前に出たということで「ボーク」が宣告される。

28 投球の義務（5.10i 関連）

「すでに試合に出場している投手がイニングの初めにファウルラインを越えてしまえば」とあるのを「投球練習するために投手板に位置してしまえば」に読み替える。

29 監督又はコーチがマウンドに行く制限について（5.10l 関連）

監督又はコーチが舞うインドに行く回数のカウントの仕方について、アマチュア規則委員会より、2015 年 2 月、MLB 及び国際大会の基準として、下記 1～4 が提示されたが、全日本軟式野球連盟では下記「1」と「4」は採用するが、「2」と「3」は採用しない。

- 1 監督又はコーチがファウルラインを越えて投手のもと（マウンド）へ行った場合は必ず 1 回に数える。（ただし、投手交代の場合を除く）

- 2 イニングの途中で監督又はコーチが投手のもとへ行き投手交代をする場合、新しい投手がマウンドに到着し、その投手がウォームアップ（準備投球）を始めたならば、その監督又はコーチはベンチに戻らなければならない。もし、そのままとどまっていた場合には1回と数える。
- 3 新しいイニングの初めに、監督又はコーチがマウンドに行った場合：1回に数える。
- 4 球審（審判員）は、監督又はコーチに投手のもの（マウンド）へ行った回数を知らせる。